

北区飛鳥山博物館だより

2022.3.20

ぼいす

48

—異文化のまなざしに映った他者・表象・言説—

G E N S O N O E D O

幻想の江戸

会期 令和4年3月23日(水) — 5月14日(土)

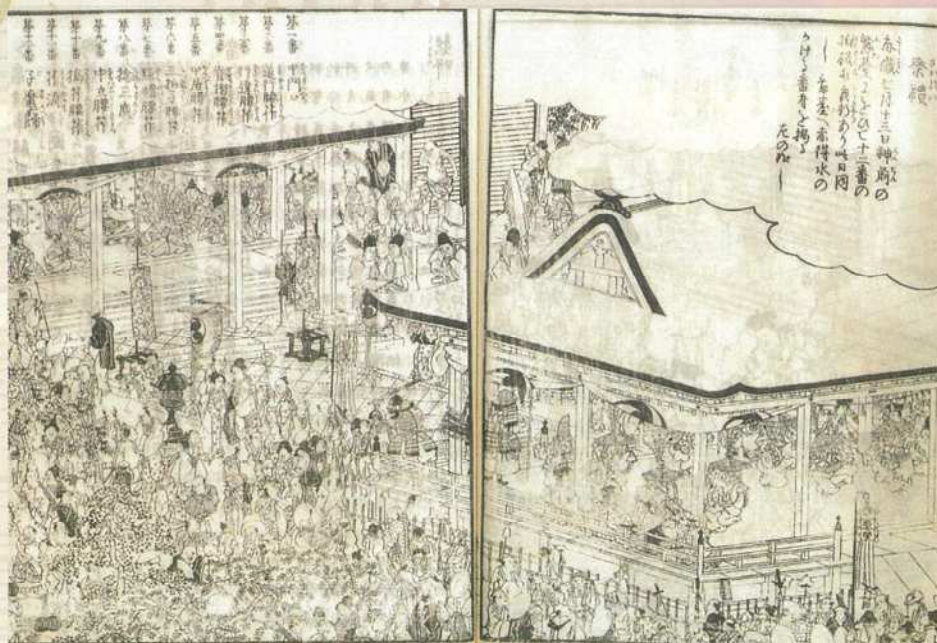
開館時間：10:00～17:00 休館日：毎週月曜日 会場：特別展示室・ホワイエ・講堂



アンペール＝ドロワ 「王子田楽」 Humbert-Droz, Aimé Le Japon illustré Hachette 1870年

春期
企画展

観覧無料



齋藤幸雄・幸孝・幸成 「王子田楽」
『江戸名所圖会』 1834～36年

春の催事情報



の企画展 「幻想の江戸 —異文化のまなざしに映った他者・表象・言説—」

幕末に江戸とその郊外を訪れ、さまざまな記録を残した欧米人は思いのほか多く、確認するだけでも 30 人以上を数えます。これらの外国人の記した見聞記、旅行記などのトラベルライティングをひもとくと、往時は江戸の周縁地域であった飛鳥山・滝野川・王子稻荷への言及が多く見られ、また広がる景観への讃嘆や、地域の人びとに対する親愛感あふれる印象が書き残されています。



ハイネ「王子稻荷社」1860年成立
Heine (W.) Japan. Beiträge zur Kenntniss des Landes und Seiner Bewohner. Berlin, Paul Bette 1873年



二代広重・三代豊国「江戸自慢三十六興 王子稻荷初午」

その一方で、ことばや文化を異にする他者が出会うとき、さながら鏡の中を互いに覗き込むかのように、他者の表象と自己への認識の交錯が露わになり、ときに眼差しの力学によっては、西欧列強によるコロニアリズムの表象が立ち現れることもあります。

本展は、このような文化表象に対する問いかけにもとづき、都市江戸の景物や北区地域の光景を中心に異文化の接触が、どのように絵画表象や言説などのイメージを形作っていったのかを改めて展望し、異文化交流の姿を展覧するものです。展示を通して、前近代から近代へと変遷をとげた地域の姿を、みなさまとともに見つめなおす機会となれば幸いです。

最後に、本展の開催にあたりまして、ご理解、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

協力者一覧（順不同 敬称略）

国会図書館・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター・
国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構・国立研究開発法人国立環境研究所・
神奈川県立歴史博物館・福井市立郷土歴史博物館・神戸市立博物館・伊藤紀之・
エルギン伯爵家

回想のためのテーマ展示

「オボエテマスカ？」

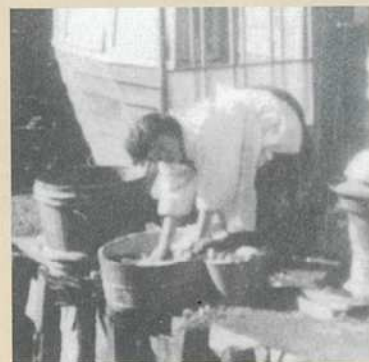
—懐かしの暮らしと道具—

よき思い出は心の栄養…私たちに安心や元気をもたらしてくれます。本テーマ展示では、常設展示室内に再現した昔の生活空間を通して、懐かしい暮らしを思い出し、ご友人や家族・身近な人々と思い出話に花を咲かせてください。

会期：令和4年4月1日（金）～6月19日（日）

会場：常設展示室「荒川と共に生きるくらし」コーナー内

費用：常設展示観覧料（詳しい料金は8ページをご覧ください。）



洗濯風景

大地・水・人

北区で富士山を探す

北区飛鳥山博物館の建つ飛鳥山は、江戸時代、花見の名所として多くの錦絵に描かれてきた。そこではしばしば、花見客の頭上に桜花の薄紅色と松の緑が広がり、飛鳥山碑とともに、遠景の富士山が描かれる。そんな花見の錦絵を見ていて、ふと浮かんだ疑問。「今でも北区から富士山は見えるのか？」

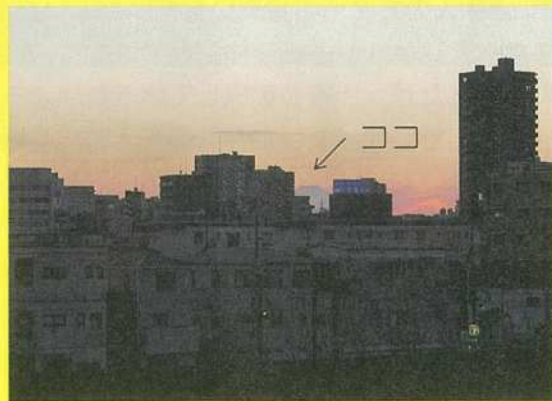
まずは、飛鳥山からの富士山探しである。10年ほど前、「飛鳥山から富士山が木立ち越しに見える」と聞いたことがあった。富士山は西南西の方角に見えるはず。冬の晴れた朝、飛鳥山の山頂モニュメント近くで富士山を探した。飛鳥山の標高25.4m、周辺よりぐっと高いのだが、見えない。飛鳥山碑の前や、すべり台のお城のてっぺんからも、見えない。木立や建物の遮りがない所を探して飛鳥山をうろつくこと暫し。見えた。飛鳥山碑から少し北にある赤鳥の歌碑の前から飛鳥山歩道橋の方向を眺めると、雪で真白い富士山の頂部だけがビルの向こうに確認できた（写真左）。岩淵水門近くからも見えると聞いていたので探しにいくと、荒川大橋近くの河川敷から、ビルの間に富士山を見つける事ができた（写真右）。

現在の北区は大通り沿いに高い建物が立ち並び、ビルとビルの隙間から富士山がのぞく。けれどかつては、周囲より小高くて開けた所なら、錦絵に描かれたような富士山が眺望できたらしい。裾野をのびた富士の姿を眺めるのは気分がいい。赤羽西にある善徳寺の脇を通る坂には「富士見坂」の名が残る。現在はまったく富士山を確認できないが、何人もの人たちがこの坂の上から富士山を眺めたのだろう。

北区には十条と田端、2ヶ所の富士塚がある。十条富士塚は高さ5mほどの小山状の塚で、「戦後でも頂部から富士山が見えた」と近所の人から教えてくれた。田端の富士塚は、現在は田端八幡神社境内にあるが、以前は田端駅南口の不動坂を上った辺りにあり、武蔵野台地の縁、尾根のようなところに位置していた。どちらも、富士山を遥拝できる富士見の塚だった。



飛鳥山から



荒川河川敷から

北区で町中から富士山が見えなくなったのはいつごろなのだろう？区内の小学校校歌を調べてみると、閉校した学校も含め21校の歌詞に富士山が登場していた。つくられた時期は昭和20年代後半から30年代が多いが、昭和51年に開校した旧桜田小学校(王子5丁目)の校歌にも富士山が歌われていた。少なくともその頃までは、富士山が町中からの風景の一部に存在していたのだろう。

校歌の多くからは、はるかに富士を望む学び舎、という光景が浮かぶ。富士山を仰ぎみるという行為には、未来への希望が重ねられているようだ。卒業して何十年もたつのに、小学校の校歌は歌える、という人は多い。町中から富士山が見えなくなっても、小学校校歌を歌うとき、その人の脳裏には富士山が見えている。富士山だけではない。筑波山も、荒川の流れも、飛鳥山の桜も、音無川の紅葉も、荒川の桜草も。

富士山眺望の痕跡を探していたら、思わぬ風景に辿りついてしまった。(田中)



展示室入口

イベントレポート

スポット展示

「JOMON 土器 vs YAYOI 土器 — どちらがスキ? どちらもドキッ! —

令和3年度は大河ドラマ館が当館内に開設された関係上、当館が企画する各種展示は通常の特別展示室ではなく、3Fの飛鳥山アートギャラリーで行うことになった。自分が担当する秋期のスポット展示も同会場で行うことになったのだが、いつもと違う会場で今回は資料をじっくりみてもらふ展示を考えた。区内で出土した縄文土器と弥生土器を対比する形で7点ずつ展示したのだが、ただ展示するだけでは面白くないので、ここは対決方式にして縄文人と弥生人がそれぞれの土器をプレゼンするというににした。さらに対決するなら勝ち負けがあったほうが面白いと思い、投票ボードを作成し、展示を見て気に入った方にシールを貼ってもらうようにした。さあ、ここまでくるとあとはタイトルだ。縄文土器と弥生土器、どちらが好きか。ここで頭をよぎったのが、とあるバンドのある曲。こうしてタイトルも決まり実施の運びとなった。

スポット展示は企画展や特別展と異なり、規模が小さいため予算もあまりない。そのためポスターは自前で作り、王子駅の南口改札前や飛鳥山公園内、館内の各所に貼ったのみで、チラシは製作せず、配布は行わなかった。その代替えとして情報提供に利用したのがSNSである。準備段階からその作業風景などをこと細かく配信し、周知を図った。また、オープンしてからも展示資料の紹介を7つの対決ごとに、さらに投票ボードの投票数の推移を週に2回配信した。SNSの投稿へのリアクションは良好でリプライやリツイート、実際に展示をご覧になった方のツイートがみられた。その中の一つに「面白い企画だね。博物館散策ついでにシール貼りに行きたいけど、遠方すぎて行けないから、誰か私の代わりに両方に一枚ずつ貼ってほしいって、ムリなお願いかww」という引用リツイートがあった。そこで、11月19日からWeb投票を開始した。結果、59人の方からご投票いただいた。いただいた票は館員がボードにシールを貼って反映した。また、アンケートも紙媒体だけではなく、Webアンケートも新たに試みた。利用数は22件と少なかったが、今後も実施していきたい。気になるアンケート結果であるが、「この展示をどちらでお知りになりましたか」の答えは「会場の前を通りかかって」と「館内のポスター」を合わせて56%であった。「今回の展示の内容はいかがでしたか」の問いに対しては「大変良かった」が57%、「よかった」が33%で、合わせて90%を占めた。多くの方にご満足頂けたことに安どしている。また、アンケートの回答者の年齢構成をみると10代から30代で50%を占めていることから、当初考えていた、これまでの博物館ヘビーユーザー以外の若い人達へのアプローチはある程度達成できたのかと考えている。これからも新たな視点と工夫で博物館利用者の裾野を広げていきたい。(鈴木)



展示風景



投票ボード

昨年11月、赤羽北1丁目で行われた確認調査で、縄文時代の貝塚が検出されました。袋低地遺跡内に所在する、袋町貝塚です。

実はこの貝塚、その存在は古くから知られており、昭和5年(1930)刊行の『岩淵町郷土誌』に「袋貝塚」^(注)の名称で登場します。巻頭には、赤羽台の崖線を背後にし、畑地に白く貝殻片が散り広がる様子の写真が載せられています。しかし、その所在地については明確には記されておらず、市街地化が進むと視認できなくなり、具体的な場所は不確かなままになっていました。

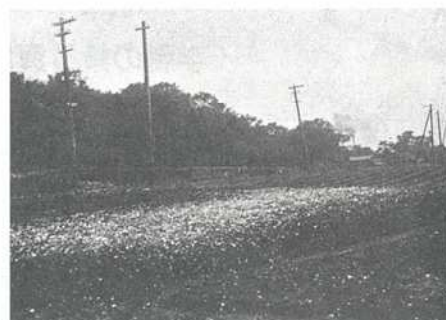
平成8年(1996)、環状八号線に面した赤羽北1丁目の一角で、発掘調査が行われました。対象地の南東端の、15㎡にも満たぬわずかな範囲に貝層が検出され、その続きは対象地の東側へとさらに広がる様子を見せていました。そして昨年11月の確認調査は、まさにその東側に隣



確認調査で検出された貝層

接する敷地で実施されたものでした。建物が解体され更地となった敷地には、貝殻片の散らばる様子が確認され、いざ調査を開始すると、地表から1m前後の深さで、ヤマトシジミやハマグリの良い貝層が姿を現しました。少量ながら縄文土器の破片も出土し、さらに一部を深く下げると、マガキの層も検出されたのです。姿を現した貝塚は、『岩淵町郷土誌』に載る写真を彷彿とさせるものでした。(牛山)

(注)現在の遺跡名称は袋町貝塚



『岩淵町郷土誌』掲載の「袋貝塚」

voice

博物館でのコミュニケーション

新型コロナウイルス感染症が流行して、もう2年が経ちました。この間当館では、昨年秋に開催した秋の博物館サロン講座を除き、講座などの催し物はすべて中止を余儀なくされています。当館の大きな特徴である講座がなくなったことで、当館と利用者との距離が開いて互いの声が届きにくくなってしまったように感じます。

思えば、この2年は対面以外の方法で「利用者はどう声をかけるか」を模索し続けた2年でした。直接顔を合わせることができない分、各種SNSの投稿やYouTubeでの動画配信、さらにダイレクトメールメンバーには学芸員全員の手書きメッセージの送付など、様々な方法で利用者への声かけをするように努めてきました。これらの活動は感染症対策のための緊急対応でしたが、結果として当館の情報発信の手段が増え、活動の幅も広がりました。最近では、SNSを見て展示に足を運んでくださる方もいるようです。

しかし、そろそろそれらの活動を振り返り、今後どのように運用していくか検討する時期に来ています。一方的に声をかけるだけには限界があり、「動画を見てもよくわからない」という声も実際にはあります。利用者はただ地域の歴史や文化に関する情報を取得しに来ているだけではなく、学芸員や資料とのコミュニケーションをとる時間や空間を楽しみに博物館を利用してくださっているのではないかと考えさせられます。(工藤)



写真に見るあの日・あの時

学者の集う貝塚



西ヶ原貝塚

この写真は北区西ヶ原貝塚において、大正9年(1920)7月7日に東京大学助教授(人類学)松村瞭によって撮影されたものです。

西ヶ原貝塚は縄文時代中期後半から晩期前半にかけて形成された貝塚で、現在は都の史跡に指定されています。明治11年(1878)頃、東京開成学校のお雇い外国人教師W.S. チャプリン教授と、日本初の学術的な発掘調査を行なったE.S. モースの愛弟子であった石川千代松により発見されました。この西ヶ原貝塚の発見は都内の貝塚のなかでもかなり早い段階のものであり、その発見以降、明治25年(1892)の東京帝国大学教授(人類学)坪井正五郎による発掘調査をはじめ、多くの研究者が現地を訪れています。この写真も、

そうした西ヶ原貝塚の調査を目的として現地を訪れた際に撮影されたものです。

この写真に写っている人物は左から、上羽貞幸(遺物採集家)、山内清男(考古学者)、八幡一郎(考古学者)となります。考古学に関心のある方は山内清男という名を一度は聞いたことがあるかもしれませんが、山内氏は型式学的・層位学的方法で縄文土器の全国的な編年を作り上げ、縄文土器研究の基礎を確立させた著名な人物です。のちに偉大な功績を残す学者も西ヶ原貝塚を訪れていました。

このように西ヶ原貝塚は発見された当初から、縄文文化研究における恰好のフィールドとして学者間で広く認識されていました。(高坂)

モノの記憶

東京三田育種場の種袋

江戸東京野菜につけられる地名は、正式な《品種名》である場合と、《俗称》とに分けられるそうです。北区滝野川を代表する滝野川ゴボウは前者であるため、種もこの名で販売されています。また、国内で栽培される大半のゴボウがこの品種の特徴を受け継いでいると言われています。

ご承知の通り、滝野川ゴボウの種は中山道沿いのタネヤで広く販売されましたが、明治半ばには国内外の優良種苗の普及を行った「東京三田育種場」でも取り扱われました。

当館では、育種場が販売していた「滝野川牛蒡」ほか48品種の種袋を所蔵しています。これらは木版色刷で、大きさは約W7×H10cmほど。表面に写生画と品種名(外来種には原産国・外国語名も)、裏面には品種の栽培方法とともに、種の定価印が押されています。そして、一部の袋に押された「廿七年採」の印から、明治27年以降に使用されたこともわかります。

明治22(1889)年6月発行の竹中卓郎『穀菜弁覧 初篇』には、育種場で販売された種の中から127点の種袋原画が収録されていますが、この中の一部は館蔵資料と一致しました。竹中は、種袋を1冊にまとめるにあたり「育種場で販売する種の「包紙」(つまり、種袋)には欧米諸国に倣い、成長後の作物の画と育て方や収穫の季節等を示した」と書いています。種袋は種子の保護や持ち運びの利便だけではなく、正しい育て方を普及するという重要な役割をもっていたのです。(佐々木)



種袋(左下が滝野川牛蒡)



学芸員の本棚

『シュリーマン旅行記 清国・日本』

(講談社学術文庫、1998年)

ハインリッヒ・シュリーマン著 石井和子訳

今年の春期企画展に関連して、当時の訪日外国人の旅行記を一読するべきと思い、この本に行き着きました。

著者のシュリーマンは、1871年にトロイア遺跡を発掘した人物として知られますが、それ以前は発掘費を自弁するためロシアの商人となっており、1864年に事業を畳み世界旅行へ出立しました。その世界旅行の一環として1865年の5月から7月にかけて清国と日本を訪れており、同年の6月27日に団子坂・浅草寺と共に王子に来訪しています。

全8章で構成されている旅行記内では上海・天津・北京や万里の長城を巡った清国と、横浜・八王子・江戸を巡った日本について当時の情勢・世俗を含めて記述している他、幕末期の日本が欧米人の目から見て「文明化」されているか否かについてまで論述しており、当時の欧米人による日本観の一部が伺えるものとなっています。

当時の王子の様相とシュリーマンの感想については企画展の方へお任せしますが、当時の欧米人から見た江戸の様相や文化・世俗について知る際におススメの一冊です。また、企画展に行く前の予習がてらに読んだり、行った後にこの本を読むのも一興でしょう。

ちなみに、旅行記内には警備の役人の合言葉まで記されており、王子などを観光した日の合言葉は「誰」に対して「娘」だったようです。(大久保)

博物館インフォメーション

◆ミュージアムバッグ リニューアル!

3月23日(水)より、当館のミュージアムショップに新しいミュージアムバッグが登場します!大きさはA4の図録が縦にすっぽり入る大きさで、マチがあり、両サイドに水筒やスマートフォンが入るポケットがついています。さらには内ポケットまでついていて収納力抜群!色はネイビーとワインレッドの2色展開で、お値段600円とお買い得!

デザインは当館で人気の浮世絵「江戸名所道戯尽 十六 王子狐火」をモチーフとし、キツネファン・浮世絵ファンの方にもおススメです。散歩やお買い物にぜひ、ご利用ください。



◆北区飛鳥山博物館公式 SNS のご案内

当館公式 SNS(Twitter、Instagram、Facebook)では、当館の最新情報や学芸員のつぶやき、飛鳥山公園の様子、文化財・資料情報などみなさまが当館に親しみを持ち、楽しんでいただける情報をいち早くお届けしています。ぜひフォローをお願いします!



Twitter



Instagram



Facebook



◆北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。「こんなものでいいのかしら?」という方も、ぜひ当館までご一報ください

(TEL: 03-3916-1133)。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

博物館は歌留多

学芸員リレーエッセイ

学芸員をしていると、多くの方々や様々な資料に接する機会があります。

調査にご協力いただき、講座へご参加いただくなど、機会は様々です。お話をうかがうことで初めて昔の町の様子がわかったり、講座で説明の足りないところをご指摘いただいたり、皆様から貴重なお話をいただく機会ありがたいものです。また、ずっと確認できずにいた事がわかる内容の載っている古書や史料に行き当たると、「なるほど、こうだったのか」と、雲間から日が差すような気持ちになります。

改めて振り返ると、学芸員という仕事は、多くの人や物に出会う仕事なのだと思えます。そして、この貴重な出会いから何を学び取れるのか、自身が試されている気がします。

一期一会のめぐり逢いを泡沫（うたかた）のように消さないために、資料を保存し、報告書を残し、展示や講座で紹介する…これもまた、学芸員ならではの仕事です。

集積された情報や資料が、「博物館」という場に保管され、未来の人々に過去の歴史や生活を伝えることにつながることを願いながら、「博物館」というタイムマシンに、自らの思いも乗せていければと思います。

以上、春を迎えるにあたって、やや自戒を込めつつ…。(山口)

めぐり逢い
人も資料も
一期一会

利用のご案内

【開館時間】 午前10時～午後5時

※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】 毎週月曜日（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館）
年末年始（12月28日～1月4日）
※このほかに臨時休館日があります。

【常設展示観覧料】

	個人	団体	三館共通券*
一般	300円	240円	800円
高齢者 (65歳以上)	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

※現在、三館共通券の販売は中止しております。
★年齢が確認できる証明書をご提示ください。

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。
(障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除となります。)
・三館共通券は当館のほか、紙の博物館・渋沢史料館をご覧になれます。



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・東京さくらトラム（都電荒川線）飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス（草64、王40・50系統）飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・Kバス（北区コミュニティバス）飛鳥山公園停留所より徒歩3分
- ※飛鳥山公園に隣接している有料駐車場がございます。

編集後記

今回のぼいすを用意している間も、刻一刻と状況が変わり、予定していた講座なども続々と中止になりました。しかし、どんな困難があろうとも、その時その時に「最善を尽くす」ことは変わりません。シンプルに、用意周到に、この状況で今できることを粛々と。(工藤)

春 3～6月

展示

◆春期企画展

「幻想の江戸—異文化のまなざしに映った他者・表象・言説—」
…………… (3/23～5/14)

◆〈回想のための〉テーマ展示

「オボエテマスカ?—懐かしの暮らしと道具—」
…………… (4/1～6/19)

◆スポット展

「北区をめぐる、北区からめぐる
—旅に関する記憶と記録をたどる—」
…………… (5/28～6/26)

講座

◆北区文化財めぐり—王子編— …………… (5/14)

◆北区遺跡学講座 …………… (5/21)

◆『万葉集』からたどる人々のくらし …………… (5/22)

◆江戸のお仕事、紹介します キラキラ系ファッション業界の巻…
…………… (5/28)

◆歩く勉強会 …………… (5/29)

◆北区ジュニア考古学クラブ2022 …………… (6/5)

◆北区文化財めぐり—西ヶ原編— …………… (6/11)

◆地図と古写真で楽しむ北区 …………… (6/12)

◆江戸のお仕事、紹介します ファブリック系ファッション業界の巻…
…………… (6/18)

◆スポット展 展示解説 …………… (6/25)

◆助一郎日記を読む お富士さんの変遷と明治44年の富士登山
…………… (6/26)

夏 7～9月

展示

◆鎮座700年 王子神社の歴史と文化 …………… (7/16～9/30)

◆夏休みわくわく展示
「メイドイン 北区を探せ!」 …………… (7/21～8/28)

◆特別展覧会

「第21回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」
…………… (9月中旬～10月中旬)

イベント

◆夏休みわくわくミュージアム☆2022 …………… (7/21～8/28)

講座

◆考古学講座〈中級編〉

考古学を学ぶ—貝塚の話・中里貝塚— …………… (7/3)

◆江戸のお仕事、紹介します フードサービス業界の巻…(7/16)

◆第37回新聞から読む考古学
—2022年上半期を振り返る— …………… (7/17)

◆皇妃エリザベートがみた王子田楽 …………… (8/6)

◆鹿島紡績を知る …………… (9/18)

※催し物は仮称のものも含まれます。() 内の実施日は予定です。
詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページを
ご覧ください。

臨時休館のお知らせ

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸（くんじょう）/収蔵庫内の殺虫・殺菌処理にともない、7月上旬頃に臨時休館をいたします。詳しくは、当館ホームページ等をご覧ください。何卒ご理解のほど、よろしく願いたします。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす48

【発行日】 令和4年3月20日

【編集・発行】 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133

【印刷】 文明堂印刷株式会社